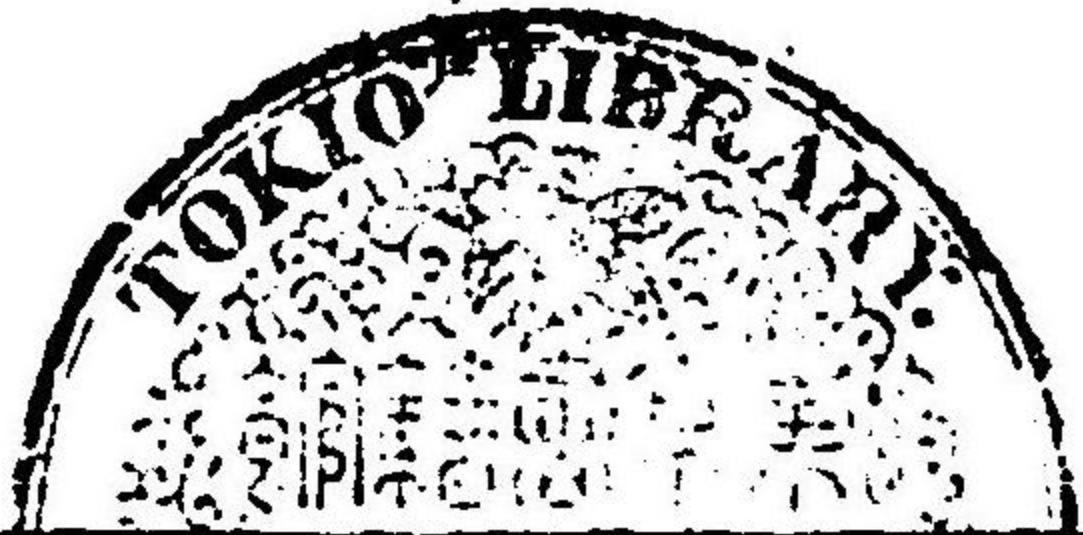


122  
74  
28

東 京 圖 書 館

七 五 冊	六 八 號	二 六 架	小 說 類	和 書 門
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

增補通俗三國志  
六編  
六



あつらんぶくきんぞうしんほんまきの  
繪本通俗三國志六篇卷之六

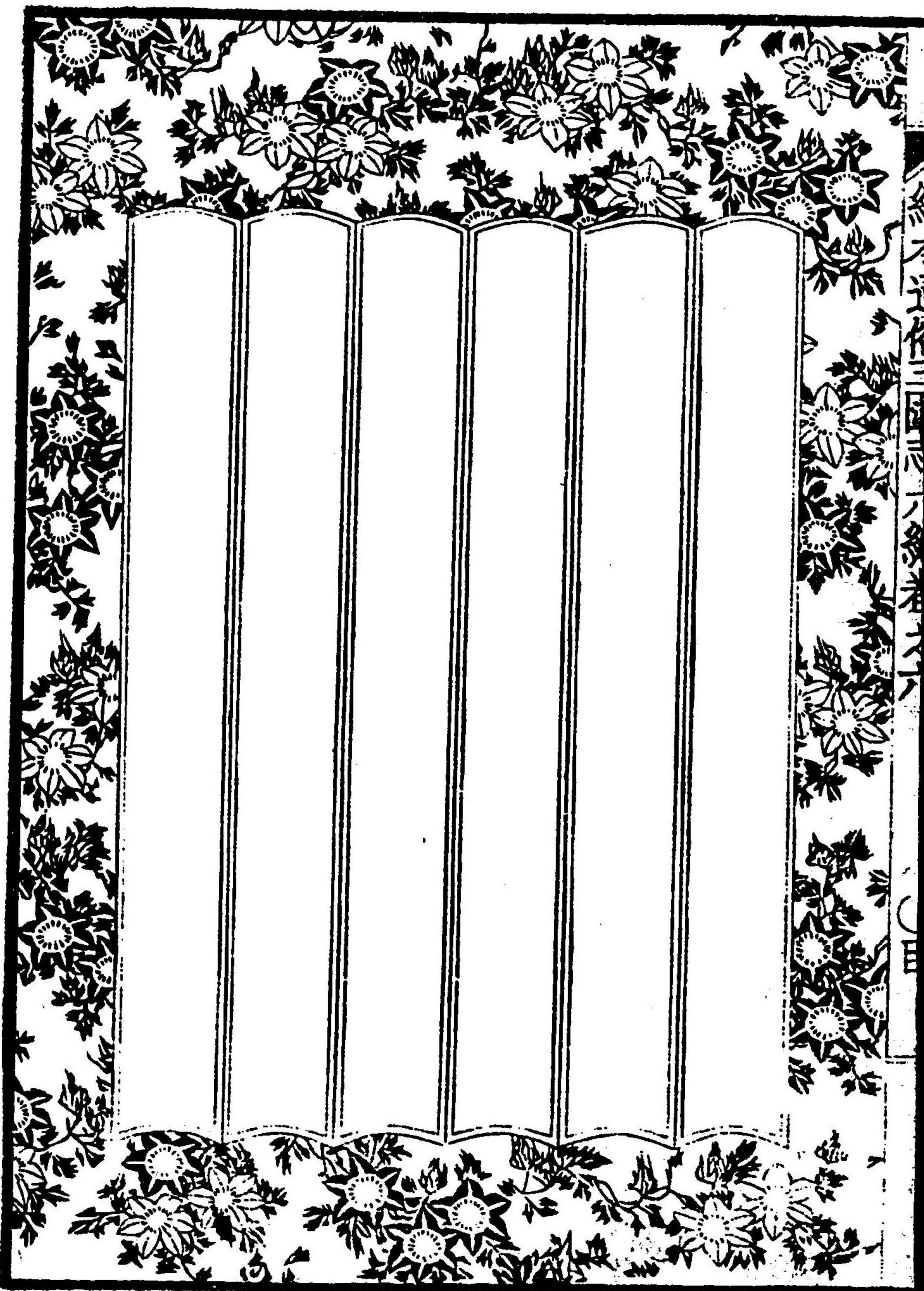
目録 明治十年交換

孔明五擒孟獲

孔明六擒孟獲

孔明七擒孟獲

東京大学図書蔵



繪本通俗三國志六編卷之六

孔明五擒孟獲

孟獲蜀の陣を出て路みて敗軍の士卒を集ち数千人を引  
 て走りけるは向より馬烟を立て一手の勢きたりけしは難ま  
 らんと怪とる弟の孟優が兄の仇を報せんとして敗軍を  
 率ひ来りしものりければ二人手執り哀を哭く孟優が曰く蜀  
 の勢勝みのゆゑ其鋒も當らざらざら山陰の洞中に入り其  
 銳氣もさけつ蜀の勢の極執を苦んでおのづから退くべし  
 孟獲曰く何み入て避べきぞ孟優が曰くそのより西南の方み禿  
 龍洞といふ所あり洞中の主とて乃木思大王といふ某と交をよと深  
 し行くもの人を頼らざし孟獲の言に従ひ先孟優と禿龍洞へ

繪本通俗三國志六編卷之六

一

遣さるる乃水思大王との故と問ひては「義も及ばず自ら兵を  
 引く。孟獲とてよく迎へ酒食を進へ持はしむる孟獲は曰く  
 孔明の辱を受たの故に大王を頼り身を安んぜんとおもひて  
 思王が曰く「御心易くおもひて人若蜀の兵を來らば我を  
 一人も生て回さんや。孟獲喜んでその計を問ひ思王が曰く此  
 不來るる只二條の路あり。東北ある路は只今大王のまじり入る路に  
 地平な水甘く人馬通やせしむるも大木大石をめぐりて洞  
 を塞ぎたるたふひ百万の勢も通らざらん。又西北の方ある  
 山路は岩石をびいて鳥も翔たなく殊に毒蛇惡蝎の類をちりて  
 方より瘴烟起り。巳午のとたまで収らざれば推未申酉三との間  
 往來とぞ。況やその路水きくく人馬をさへ行かじ。四所

は主母の泉あり。二の山は唾泉と名く。その水はあじ甘く。今  
 一飲とて人の言と克む。十日とぞたゞとて必も死す。二の山は  
 滅泉と名く。その水温ましく湯のじり人の毛をむしりて  
 れは皮肉忽ち爛れ膏を生じ必も死す。三の山は黒泉と  
 名く。その水は白く。人ば身もそぐとて人の手足も黒  
 しく必も死す。四の山は柔泉と名く。その水あたるも氷のごとく  
 人ば飲とて喉の内暖氣へ身綿す。人も柔まらぬ。勿  
 ちも死す。その人よ。人かや。又びと虫もちり。鳥もは。只漢の  
 世は伏波將軍馬援の。そのあまたなる。古今にうたる英雄  
 も。卒にその路を通りたるは。今東北ある大路を切塞ひ  
 大王の御心を安んずるも。蜀の軍勢大路を切塞ひたる

とて必む西北の山路より進ん此途水よりして時い極熱盛  
ちとて喉渇くおのづから彼四の毒水を飲一人も残りざらば  
下何ぞ刀を抜とも用ひんと実まらるる云けしと子孟獲  
たりも喜び手せのり額をさまで今日と身安んせざる  
の地ありといふ人々天を仰ぎ笑ひ北を指さして曰く孔明の  
ある神機妙算もあまのあれ此四の泉をとりて日比の根を  
とぐべしとて此より衆思大王と日夜酒宴して居たりけりさる  
程は孔明へ叔日子孟獲がよせ来らざるをえて西洱河の陣を  
そあま大軍南をさして進けるが時とて六月とて冬天の暑  
気あつても焼くごとく忽ち早馬きたり子孟獲いま秃竜洞へ  
げ籠て路の要害を切塞ぎ兵を分て固く守る嶺壁へ岩

時いで一足もさむと克むと告げれば孔明とあつち呂凱とあ  
しく安内を問ふ呂凱中ける其の秃竜洞は二條の路あり  
と来りへるのこゝにて委く存とゆを蔣琬が曰く巴子孟獲を四  
まで生捉りひく南蛮の軍民とぐく膳を冷めて争う重祿を  
中園を犯さざる時いま暑気さかんましく人馬と疲乏たり  
とさきより困り回らんを志し孔明が曰く汝が人の如くせば是  
孟獲が願ありと今退いて回らんをせ彼ももらざる勢ひり  
のひて追討ん巴子とのちを攻入安んぞ半途より回らん再  
び回らんといふもの必む斬んとて王平も叔百濟を授け先  
陣と降参の蛮兵を路を打せて西北の小路より進ませける  
人馬とあ渇しく傍らる水を飲まの路條を孔明が告んと



王平まが本陣に引回しけるが皆言入とてくも言生をたふ  
 ロのびびごも計あり孔明大まどろま叔の毒中まらんと  
 て自ら車に打乗板十人を打てきたりえふの泉ありその  
 水をあつ清しく深きと底まぐ水気凜たりけむ孔明車  
 より下り山より其辺を望むと四方の峯巒風を立たるごとく  
 むして鳥の言とよまのさざりふんの内まら安まら遠く岡  
 の上ま古ま席のあつて付て鳥を取付藤を挙て石屋の内  
 へ到り一人將軍の像あり側ま石を立碑の銘を刻これ乃  
 ちまとてする漢の伏波將軍馬援が席あり南蛮を平げく  
 大の名ま来し主人その徳を感一席を立てまを祀ると祀せ  
 り孔明再拜して曰くま先帝の猷を託する遺命をうけ後

主の詔を承りてま来り南蛮を平げてその人を服せし呉  
 魏を滅ぼして漢室を安んぜんと計ありま手下の勢地理  
 をあらまあやまの毒水を飲まる言と生まると克むと望ま  
 り尊神漢朝を顧み擁護の力を副り人信心に祈念一席  
 を出てそのものもあると尋ませけむ傍らる山の上よりあや  
 しげま老翁一人杖まをりて出来たり孔明まを招て岩  
 の上ま坐しその名を問へ老翁答て曰くま久しくまのあ  
 りく丞相の大名をきく今幸に見るとと得たり南蛮の奴  
 賊に活命の恩を被りて喜びむは孔明又  
 の泉の故を問へ老翁答て曰く今飲たる水と唾泉と名是  
 ぞのしとへ勿ちと啞とあり板日より必と死し此路又西





謝して曰く幸は活命の徳を受けむかきその姓名をきくらん。  
 老翁起て廟の中に入り、まじはれ此山の神あり。伏波將軍  
 の命を受けんと来りて右のふりて告教とらひ祀り廟の後  
 る石壁を開て入けしは孔明大をどろき、謹んで再拜し車  
 の内へ本陣を回り次の日神の教をまたかひ毒水の中たる  
 ものどゆと。具く西の方ちる谷におひむき二十里あま。入  
 てはまじはれ長松大柏悉くとして茂竹奇花籬落と繞り板  
 間の茅屋相列ありて異香風飄りあこめり仙境に入らば  
 じ巴の山莊の山荘の戸をたきけしは内より童  
 子出迎てまじはれと問孔明名字を通せんときる。本はち  
 まち竹の冠は白き衣と被碧眼黄髪ある老人出来り。とて

今駕で在りし漢の丞相のひをぬるといひ孔明笑ひて曰先  
 生あまよと某が名をまじはれ入る老人やけらるへくく丞相の南  
 蛮を攻めんとせりけしは安んぞまじはれらんやと。遂に草  
 堂の内に入り礼をひて坐定り孔明告てやけける。某昭烈皇  
 帝の孤を托し入る遺命を受け後主の聖旨を承りて大軍  
 を引て南蛮を服せしめんとき。期せざらば孟獲ひたる洞中  
 に入り難所を守りてまじはれ出ま。是のひを深くする塚と探ら  
 んとして誤りて唾泉の水を呑昨日伏波將軍の神命を受け  
 先生の庵に薬の泉あると志願し隣を垂て救ひし人  
 老人やけらるへ量る老夫の山野の世指入らんぞ丞相の駕をま  
 げのひとせ勞せん其泉の家の後あり早く飲まひと

新編通鑑綱目卷之六

七

て童子に命じて王平との外の堰を切りたるものどもを  
せ。溪の辺に於て水を飲まむ。即時に悪逆を吐て大に  
そのを云けし。童子又魏軍を拜て。方安溪の中を沐浴せし。  
薤葉の芸香を一葉の合ませけり。老人又ふら拍子の茶  
松花の葉をさそめて持はし。孔明は告て中ける。此の谷に洞  
中。毒蛇悪蝎おほし。柳の花落ちて溪の中に入ると。その水  
毒のつて飲べらむ。只地を掘て水を求めて飲な。孔明  
拜謝して姓名を問ふ。老人笑ひて曰く。某の子孟獲が弟孟節  
とや。そのの孔明。孟とどろまけし。老人笑ひて曰く。丞相  
おどろまけし。願ふの来由を説く。其の同母の父母の生たる兄  
弟三人あり。其の嫡子とて。次の孟獲。その次の孟優あり。父

女を奪ひて。二人の弟強悪を殺す。はめて王化をまごむ。其  
まをく。練もども更を用ひし。其の卒の谷に隠る。今二  
人の弟服せむ。丞相不毛の地に入とて。勞せし。孔明嘆  
トて曰く。古も柳下惠盜塚がてき。兄弟あり。世に異されども。今  
も同。そのと福がへく。天子を奏し。先生を南蛮の王とせん。  
孟節が曰く。某功名をきらひ。その意をこり。その人ぞ再び富  
貴を貪む。そののら。孔明金帛を贈。孟節堅辭し。く  
多ざりし。孔明嗟嘆し。己を拜し。別きて本陣を回軍  
し。命じて地を掘志む。二十余丈掘ても水ありし。を  
諸軍に力をもと。孔明又他の名を掘志む。二十余丈掘  
りて。水ありし。夜半に香を焚。天に祈りて告て曰く。雲

諸葛亮不才にして大漢の恩を被り、詔を受けて南蛮を討つ。いづげんをせらるる途中、水乏ゆへに人馬を枯渇せしむ。天に漢を棄るるを願ふ、甘泉をたれしめて、諸軍の苦を救ひし人若漢の運氣をたれしむるを臣亦たあまの命を死せんと。誠を尽して、終夜祓り、夜明けて見れば、十余名の井、尽く甘泉あり。人馬まさしく安然たり。孔明さきめあらず、喜び大軍を引いて、小路より、卒に赤龍洞入り、地を掘んで陣せらる。南蛮の兵をたれしめて、いそぎに孟獲を報し、蜀の軍勢、瘴疫の氣をたれしむ。又、枯渇の患もたれしむ。洞中へ入り、りと告げし、蜀の大王をたれしむ。更、又、信とあめを自ら、高き山に登り、望しむる果し、蜀の軍勢、安然して、大小の桶

にて水と運ぶ。蜀の大王、あまの命をたれしむ。毛髮もあ、倒れ、孟獲を顧み、曰く、たれしむ。尋常のあまの命をたれしむ。神の助あり、孟獲が曰く、たれしむ。兄弟二人、たれしむ。一戦して、討死せんと存する。安んぞ、手と束て、擒とあらん。蜀の大王の曰く、蜀の勢をたれしむ。我洞中へ入し、味方破るるをたれしむ。我亦た妻子も保がし。牛と殺し、馬と宰して、士卒を勞し、水火をたれしむ。真地、暗弱の陣をたれしむ。命をたれしむ。たれしむ。戦へ。孟獲大に喜び、大軍を賞して、打立んとする。あまの命をたれしむ。銀冶洞主、楊鋒、二十一洞の精兵三萬、余騎を引いて、戦ひを助く。報し、ければ、孟獲大に喜び、人曰く、隣の勢をたれしむ。と助く。是をたれしむ。勝るるの吉兆あり。とて、蜀の大王、共に出む。久けし、六揚鋒内へ入る。や、けらるる。三万



諸將ハ

安樂泉ニ

浴して唾泉の

難と云ふ

の精兵あり。皆鉄の甲と被て山と超嶺を飛ちんぞ蜀の勢は  
るんぞ我又五人の子あり。皆自武藝世に勝りて大王と扶るよ足  
りとして呼生しく對面せしむる。何とぞ彪駝虎体はして威風  
凜たりけし。孟獲ん喜び酒宴と設けて重ゆぐさる。已  
に半酣のいりける。楊鋒ゆける。今軍中は樂はし幸我  
は志たぐふ。孟姑あり善刀とまへて負ておきて願ふ座中の笑  
と助けん。孟獲志る。おと喜びけし。孟獲よりおと十人  
の孟姑とよ髪をさへまき蹴足まへて帳外より舞へ入れ。若  
人手と拍て哥ひける。時孟獲二人の子は孟と拵て孟獲孟  
優が前みへし。おと手と下せし。程さあれ二人の子は  
孟獲孟優とけ倒し。おとおと懸ておとけられ。おと思王意

孟と遊んとさる。おと十人の孟姑刀を持て渡り。おと卒孟揚  
鋒と生取しけり。孟獲おと告て曰く。鬼死をれ。おと  
と哀む。おと其同き類。禍の及ぶと傷む。おと我と汝へ  
おとふ。おと南蛮の洞主は。おと仇をたさ。おと無り。おと  
おと此のどくある。楊鋒言く。おと兄弟子姪。おと孔明の恩と被  
る。汝は。おと王化。おと叛ひて軍民を苦しむ。是の人の槍を  
て。孟獲が勢と尽く。おと放して。おと蜀の陣へ行く。生取と献る。  
孔明ま。おと入。おと揚鋒と對面。おと楊鋒五人の子と。おと  
帳下。おと再拜して。おと某。おと丞相の恩徳と感。おと孟獲  
おと生取て献る。孔明。おと重く恩賞と與て。送り。おと  
孟獲を。おと出させ。おと笑ひて。おと汝。おと度。おと服。おと孟獲

會元通卷三十四 蜀志 孟獲

曰く。汝を生取きたる。汝らも我洞中の人たがハハ害を  
 あしく此のじ殺さば殺せ。がんハ服せむ孔明が曰く。汝らと  
 水あき路みまじり入れ。更ハ唾泉滅泉黒泉柔泉をのめて  
 毒中らうめん。我天の助を得て。恙なくさる。み来る汝ら  
 迷てて服せざる。孟獲が曰く。先祖より銀坑山の内  
 居して。三江の要害重関の固あり。そのをよて一戦し。若重て生取  
 孟夫子。孫もあぐ。我れ孔明が曰く。又汝を放しく回ら  
 志めん。思程兵を懸て。さるよく勝負を決せよ。そのをよて若生ど  
 ので。汝又服せざる。我らもらむ。其九族を滅せんと。繩を  
 解て放しけし。孟獲再拜して。回しけり。孔明又孟優を  
 思王とぞ引出させ。酒を飲せて。けり。孟獲が謀又ハ汝二人が  
 罪もあらむ。能く練やよと。馬を典て送回しければ。二人愧て  
 拜謝して去る。

孔明六擒孟獲

孟獲放されて。銀坑洞を回り。千余人の宗黨をわめ。三江の城  
 みて。軍評定を本と。抑さの三江とす。瀘水甘南水西城水の  
 三の流と相濶りて。三江とあり。北ハ二百余里あり。地をあら  
 平。多々方物と産す。西ハ二百里あり。塩井あり。南ハ二百里  
 あり。梁都洞あり。四方をよ高山あり。多く銀と出さる。のめ人  
 銀坑山と名く。その内ハ宮殿樓閣を立て。南蛮王の巢とす。  
 又一の祖廟を立て。家鬼と号し。四時牛馬を殺して。祭とす。  
 又ト思と名く。毎年外國の人を捕く。性具人採生の類の

び。人若病あるとて入て薬と飲とちて。只巫師を禱て愈と  
 て求ち名けて藥鬼と号と男女成長とて入て。漢の中にて味  
 谷せし自ら混清して其配偶とるに任せ父母とく人ぞ禁せ  
 る。是と學藝とて各く歳豊より。兩水よく調とる。五穀熟と  
 ば熟とせざる。蛇とて入て。象と煮て飯とを。その日  
 四方の洞主酋長とて。その官中の酒宴して。地の上の席とまま  
 前より金銀の器と列ねて。孟獲諸人むひつりける。我志あり  
 孟蜀の勢とて。自ら入て。其言とて。報せんとあらず。汝もい  
 高見あり。時より人をも入て。曰く。大王もく孔明が辱あり  
 といとて。某深く怒る。若兵法とて。その必と。まはる。勝  
 ととる。其計あり。蜀の勢と忽ち破らん。諸人と

れをて。孟獲の夫人の弟より。八番の部長帶來洞主と  
 といふものあり。孟獲喜んて問て曰く。いづれ計ぞ。帶來洞主  
 が曰く。西南より。西南より。八納洞あり。洞主木鹿大王より。法術  
 に通じ。出るといへ。何も象も乗じ。敵陣を臨むとて。風  
 せよ。兩を呼。虎豹豺狼毒蛇。蝎の類相從ひて。先に進む。  
 殊に手下より。三万の神兵あり。甚だ英雄より。向とる。皆手  
 と東て。其より降る。大王いと。禮物を具て。その人を頼な  
 某の計から使とて。彼洞より入る。此人も。助け。何ぞ  
 蜀の勢と。怖とる。や。孟獲大に折る。即時より。各簡と封とて。八  
 納洞へ。かひ。しめ。承思大王より。三江城を守らしむ。そのと。孔  
 明へ。直より。三江城より。かせ。途より。望とる。三方へ。江より。

陸又統つぎたなお魏延趙雲きん兵を付つけ陸路りくろよりむ志しゆるよ其勢そのせう  
まま切崖きりがきの下した近付ちかづけると城の上しろより叔百張ひゃくちやうの弩くわと一度ど  
放はなち出いしけとべ真先まこととしる蜀の勢せう象碁しやうが倒たれと射や  
倒たる元末またの乃乃の常じやうよく弩習しやくて一列りの乃十條じゆじやう  
の矢やと放はなち鏃とお毒どくと塗ぬるのの入矢や中ちゆうるのの皮肉ひにくとれ  
破やぶれて五臟ごうと出いて死にける魏延趙雲きん城じやうゆんを攻せると克あむと  
退あひく孔明報ちゆうトけとべ孔明きやうめいとしる車を打うち乗のり城じやうの虚まぼろ実まことと望のぞ  
て二三さん里りをり傳だんと退まきけとべ南蛮なんまんの勢せうと笑ひて相喜あひよろこ蜀  
の勢せう弩くわと怕おそと引退ひきくちらんと皆怠おろそかにて居たるける孔  
明きやうめい二に三さん里り退ひきいて傳とり五ご日にちがある出ざりけるが第五ご日にちの暮ゆふ方  
より俄と風吹かぜ起たりけとべ諸軍しよぐんと下知げちくやける汝にホ一人

も残のこらる幅ふくの衣いの襟えりと初更しよこうのとれ至いたる用意いせよ無な者もの  
の首くびと斬きん諸將しやうの故こを志らる命いのちと志したらがいて尽く用意い  
けとべ已は初更しよこうとまよんで孔明きやうめい又下知げちく白く諸軍しよぐん一幅の襟えりと  
尽つく土と色いろあままのの必を斬きん諸軍しよぐんと本用意よういしけとべ孔  
明きやうめい又下知げちく白く包たる土とので早はやく三江さんかうの城じやうの先と  
到いたり重く賞あづかせん諸軍しよぐんと争てそせ集ありけとべ孔  
明きやうめいの志を積つむ足とぬりし早はやく城へ登のぼるの功こうとせん  
て進すすむとよづりけとべ蜀しよの勢せう十じゆ万まん余よ騎きとらび降くだる蛮  
兵へい二に万まん余よ騎きとと馬うまより飛と下くだり土の囊ふくろと城下じやう積つ上かみ二  
十じゆ余よ所しよより攻せ上かみりけとべ城じやうの内うちに此の敵てきの来きらると  
油断ゆだんくこもよく寐ね入いたるかあや敵てきの城じやうを登のぼるとよづる



とて矢倉ありける兵ども怒りと射出さんとするは大半既  
小蜀の勢を主投まけり。城の内上と下へ騒動しく。たぐひあし合  
踏殺さるゝ。あゝ蜀の勢を造りて蒐たりし。魯思大手を  
軍の中へ討ちて。其勢右住左住の凶走る孔明三江城を乗取  
て得るの珍宝と。諸軍勢を分典とす。江を渡りし。孟  
孟獲を捉へて。いふと殺さるゝ。忽ち屏風とてと踏倒  
し。一人前をさへ生れ大に笑ひて。汝男と生じて何と  
て右の智慧あきざり。我女ありと。いふも。孫がくわ兵を率  
蜀の勢を打破る。諸人ありと。いふ。子孟獲が妻の祝融夫人  
あり。さあち上古祝融氏の後裔なり。世々南蛮に居る。劍  
とて人を殺し。百度をさへ百と。中る。孟獲死して再び懸

りたる心地しく。いふ。喜びけし。祝融夫人の馬  
打乗猛将數百人。精兵五万余騎を。討て進發し。蜀の陣を  
あやせし。蜀の大將張疑一軍を。討て討て。南蛮勢  
とて。とて。両方へ。と。分れけし。祝融夫人。髪と。を。ま  
蹴りて。身。撃。ま。衣。着。背。五。の。刀。を。扱。手。一。丈。八  
尺の。棒。と。持。捲。毛。の。赤。馬。を。乗。ま。進。来。張。疑。の  
勢。を。と。て。ん。か。ろ。き。馬。と。交。二。三。合。戦。ひ。ける。祝。融。夫  
人。引。回。し。走。り。け。し。張。疑。ま。う。追。蒐。る。あ。空。中。す  
一。の。刀。と。び。下。り。け。し。身。を。側。と。は。ん。と。其。刀。左。方  
臂。中。り。馬。より。倒。ま。落。け。し。喊。の。言。ひ。と。い。き。南。蛮  
の。勢。四。方。より。取。圍。し。卒。に。張。疑。と。擒。め。蜀。の。大。將。馬。忠。之

祝融夫人  
入  
張飛  
生  
捕



祝融夫人

蠻兵



續水滸傳卷之六

十五

と救へんとし出けり。又南蛮勢四方を色と左突右う  
いふも出るとを得。時祝融夫人丈八の棒を握り馬を躍  
く来けり。馬忠まきり前へむ。戦へんとする。南蛮の勢  
繩を掛く後より。孔明又生取て回りけり。孟獲小踊り  
喜び酒宴を殺て。諸軍をゆるはしけり。祝融夫人生取て  
生取。早く首を刎んとする。孟獲制しゆけり。孔明  
ことと放すと。巴五度まきり。今たつもの生取て。女を殺  
さんへ。大なる不義あり。天下の人あは笑む。孔明や斬り洞中  
に囚置て。そのもの辱し。孔明を生捉て後との殺さん。  
祝融夫人は喜ひ上下喜び笑ひ。樂やある。去程は  
蜀の取軍孔明見へ馬忠張疑が生取となる由告げ

れ。孔明大なる急ぎ馬岱をもよんで計を授け。次は趙  
雲魏延を呼ぶ計をまきり。けり。皆兵を引て出まけり。次は  
日趙雲まの兵とまきり。けり。祝融夫人馬のひて討て。生  
二人五六合戦ひ。趙雲詭り負て走りけり。祝融夫人伏  
兵あらしんとし。怖してあへて追を。魏延又一軍を引て。打  
蒐り。まきり。戦へ。又走けり。祝融夫人さらし追を。ま  
ぐく。引回も。次の日趙雲又あし。時移るまで戦ひ。詭り  
て走りけり。祝融夫人あへて追を。引て本陣へ回らんと  
志けり。魏延兵を引て。色と。荀り辱し。祝融夫人大なる怒  
まきり。馬を取て。回しけり。魏延詭り負て。逃走。祝融夫人  
兵を引て。追けり。魏延山路の内へ走り入ける。忽ち後

蜀の取軍孔明見へ馬忠張疑が生取となる由告げ

の言き人々急馬を回して、えりて、祝融夫人まつ倒馬  
より落さる元来馬試ひする。そのも埋伏し、馬の蹄を引  
としく、祝融夫人を生捉ける。南蛮の勢、さりとて、ま  
来救へんとさると、趙雲一陣と大殺し、けし、其勢残少  
あつて、四方へ走りける。孔明まが、祝融夫人が、繩を解て酒を  
飲し、孟獲が陣へ使を遣し、夫人をのりて、張疑馬忠と換へ  
いひ、けし、孟獲より、即時に二將と送回す。孔明も祝融夫  
人を洞中へ回し、けし、孟獲へ、敵を拒んと、議さるる。忽ち、  
八納洞の木鹿大王来り、告げ、けし、けし、けし、けし、けし、  
ぬ、その人白き象を騎て、身へ金珠、纓絡を垂腰、大なる刀を  
二振り、けし、軍中へ、虎狼と養兵あり。いづれ、けし、けし、けし、

再拜し、迎へ、酒宴を設け、持成けし、六次の曰、木鹿大王、  
方の兵を率し、かの猛き獸を引て、蜀の陣へ、打向し、趙雲、魏延  
と、あし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、  
勢、旗幟、馬物の具、いづれ、けし、けし、けし、けし、けし、けし、  
て、向へ、悪鬼、羅刹、の異、あつて、軍中へ、鼓角を鳴さむ。只、金と振  
て、号令をばし、木鹿大王、腰へ、二刀の宝刀を、けし、けし、けし、  
持、白象を、乗て、大旗の下へ、出、けし、けし、けし、けし、けし、  
と、失し、趙雲、けし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、  
と、逢む。いづれ、けし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、けし、  
と、念、ト、手へ、帶、鐘を、搖し、けし、けし、けし、けし、けし、  
し、石を、走ら、ま、む、と、急、雨の、ど、く、鳴、たる、響、音の中へ、鹿、豹、射

狼毒蛇蝎風に乗て来り牙を張爪を舞く陣中  
又突て入る蜀の勢あつて入斬り快意支もささぐ散る走り  
けとへ南蛮の勢たつち三江の界まで追うけて大に勝つ  
孔明も趙雲魏延いそぎ孔明も見へて右の趣まを告げれを  
孔明笑ひて曰く我むじ草廬を出てすの巴もよく南蛮は  
虎狼と駭の法あるととまじり此の人も蜀を生さると是  
敵を破る用意をなせり今軍中よく封じたる二十輛の  
車の半を以て此敵を破るべし紅の櫃をのせたる車十輛を  
とり来れ残り黒ま十輛の櫃の後又用ふるのあり諸人と  
おその意を志らざる為の櫃を取来けし孔明はけり関ま  
出てもは皆是木を以て作る獸みて五色の線と毛と鉄

とを以て牙爪と造り一の獸を十人を容て腹の内を抜を  
使かむ今の獅子を以てあり孔明もあつち千余人の精兵を  
ささぐて件の獸百匹を領せり内は火烟のやのと容て車の  
中へ隠し置次の日もつら大軍を誑て大にささぐ又洞口に陣勢  
とまじり木鹿大王も一戦を封勝て自らもささぐ敵をささぐ  
あつちとあつちける蜀の兵討て生とりと告げしと怒  
ひてささぐ来る蜀の陣は二輛の四輪車を推出して孔明身  
は鶴髦を着鎧甲とていそぎ手は羽扇を持て坐しければ孟獲  
が曰くあつちある車は坐したるが乃ち孔明もささぐの者と  
生取のつて大事をささぐ定らん木鹿大王もささぐと又口  
の内を呪て念にささぐは帝鐘と揺り腰ささぐけたる室刀と抜て

孔明と斬んと。さうみけは。演史の間。狂風吹り。虎豹豺狼。まゝに突来る。孔明は。怖れ。羽扇を。一度。まねけ。其風却て。南蛮勢。吹く。時。蜀の陣。件。の。獸。を。あらし。口より。火焰。吐て。鼻の内より。黒烟。出。身。銅の鈴。を。あらし。牙。と。張。魚。を。ま。り。け。南蛮の。真の。獸。を。あらし。散る。走り。却て。自ら。騒。乱。し。けれ。孔明。大軍。と。近。一度。ま。り。敷。角。天地。と。崩。し。縦。横。無。碍。さ。け。し。木。鹿。大王。と。乱。軍。の中。討。孟。獲。ホ。皆。宅。と。奔。行。方。あ。ら。む。落。失。り。孔明。と。銀。坑。洞。を。の。り。取。て。諸。軍。と。勞。ひ。け。る。次。の。日。孟。獲。が。妻。の。弟。孟。帶。洞。主。と。の。志。や。孟。獲。と。練。む。孟。獲。が。従。ひ。卒。と。ん。

生取て。献。る。と。告。げ。ば。孔明。あ。げ。笑。ひ。張。疑。馬。忠。の。計。と。ま。や。ま。屈。強。の。兵。二。十。余。人。を。迴。廊。の。陰。に。置。し。と。帶。來。洞。主。ま。り。見。へ。孟。獲。ホ。と。縛。ひ。居。け。ば。孔明。ま。り。の。れ。や。兵。ど。も。の。曲。者。と。生。取。と。ま。り。程。あ。ら。む。迴。廊。の。陰。より。二。千。の。精。兵。あ。ら。む。出。卒。と。ん。孔明。笑。ひ。け。る。孟。獲。の。計。を。あ。ら。む。争。と。ま。り。欺。ま。得。ん。汝。已。に。度。ま。り。本。洞。の。人。と。生。取。れ。来。り。と。我。害。せ。ま。り。汝。回。り。汝。ま。り。銀。坑。洞。の。三。江。の。要害。重。関。の。固。あり。は。ま。り。の。あ。ら。む。生。取。と。ま。り。長。く。欺。言。て。負。し。と。り。今。ま。り。服。せ。る。今。非。ひ。降。り。信。ち。と。油。断。せ。ば。忽。ち。刺。死。と。計。し。と。懐。中。と。探。志。の。果。し。と。力。と。藏。せ。り。孟。獲。が。白。く。我。と。ん。汝。と。

服せん今日生取さし我らうらまの来りしゆあり汝が生取  
 たるよあらむ孔明が白くも己に汝を擒めたるより六度よまよ  
 べりまうれども未と服せざる何のよたを待んとあはれも王孟獲が白  
 く汝は七度までも生取らば快く服して再び負つ孔明が白く汝  
 が巢穴を破まじり放さざらん何程のゆゑあらんとて武士に命下  
 く細くともや若今一度生取たるを汝め入て服せざらんを我らか  
 らむ放さばと云けまむ孟獲宗も頭を抱く鼠の窟があつとく  
 む去まけせ

孔明七擒孟獲

王孟獲殺されて走り回り帶來洞主と議しく曰くも本洞已に  
 蜀の勢を奪またり何のあはれ身と安んぜん帶來洞主が白く

今計を窮り力尽ぬしとて一洞の身と安んむを乞ふ國あり孟獲  
 喜んで曰く秘がへくを教り帶來洞主が白くたより東南の  
 方七百里ふたりの國あり烏戈國と名く國王の名と元突骨と  
 号すと身の長二丈ありより常に五穀を食む生たる蛇と  
 たり猛き獸を殺し朝々の食物とし身六鱗生て刀も矢も  
 通得て手下に藤甲の軍とて一手の勢あり長の矮ものも  
 九尺ふ足をとつてさるく面へ悪鬼のごとくさるものなく  
 さるるま怖る此洞中よあちの北勝あり洞より生く石屋の内と  
 ちぐら國中の人たごとと取て油を浸すと半年たつと取半を  
 日よさらし乾ば又油をひし此のごとくさると十遍あまりありと  
 されと以て甲と造る甚く軽く水も湿む此をまて江と渡



胡雲



大鹿王

大鹿王と街と  
 趙雲と  
 魏延と



とて自ら沈むと云ふ。刀も矢も透ると云ふ。是の如く藤甲の軍と号すと若きの勢乃救と得る蜀乃勢と破らんと破竹乃勢ひの如くもらん。孟獲大の喜ひ遂に烏戈國へ来りて見ると其の困る室ありて土穴の内に住居すと直ち國王元突骨を見てひと頼けと元突骨一義も及ばざ二人の大將土安美泥といふものぞ呼で三方の兵と起さく皆藤の甲と被て烏戈國と云ふ東北と望んで蜀の陣と近く前の一川の江あり桃花水と号すと兩岸と桃の樹あり。年と経て葉と水中と落すと他國の人と飲とたへ心ち死して只烏戈國の人のと飲と精かと倍と元突骨桃葉の渡り陣と取て蜀の勢と待はしきと孔明大軍と

引てとて又来り。江と隔て向と望む。南蛮の勢と人の形と類せむ。悪鬼のとて見るも怖ろしき体あり。呼で其故と問ふ。桃の葉と落と此水のもたうらむと孔明五里むかり退ひ陣と取。魏延を大將と守らむ。次の日元突骨と江と渡り。およせ鼓と打金と鳴し。喊の吉地と振ひけむ。魏延兵を下知して勢と放しむ。藤の甲と中る矢と尽く。碎て立とあぐ。刀も鎗もとて透む。南蛮の勢とあたる。刀と使てさんぐと切て廻りけむ。蜀の勢と乱とて逃走る。南蛮の兵との長追とせざりて回る。魏延との回ると見る。甲と藤で水と渡りて去ると内疲とくる。甲と藤で水と渡りての上と坐し。渡りて魏延のとき孔明と見て。

由て結ぶ孔明とあるち呂凱とありてそのゆゑを議すけまへ呂凱  
が曰く其もとより南蛮の後み鳥戈圍ありて人倫みあらざるを  
とまらざる。更ニ藤の甲を被て矢も力もとらざる。桃葉の毒水  
りて國の人を飲んで飲で精力を乏他國の人を飲ば必も死をた  
ハ十分ニ勝り人とも益あるはし不如と申軍を収て回り人孔  
明笑ひて申ける我より来るに容易みあらざる。豈うろく  
弄て回らんや。始終おまへ不智の人あり。我の曰はるに平なる  
の計ありて。趙雲を魏延と助してとの陣を堅く守らせ次  
の日にのち其地の人を案内者と車よのりて桃葉の渡に到り北  
の岸にたてあまねく地理をたぐる山險く嶺峙りて車よのり通せ  
ざる。自ら歩行して山に上り谷の内を望み形長蛇のごとくは

て四方にお山石をたがひて疾風のごとく樹木をばしもろくして中  
一河の大路あり此谷の名を問ふ土人答て曰く。この谷を盤蛇谷と  
号し谷を出入るは乃ち三江城の路條あり谷の前を竹塔郎向と号  
とも孔明喜ぶ曰く。され天をよみて成功を賜ふるとして遂に本陣  
を回りひそぐ馬をたたくて曰く。今汝を黒櫃を載とる十輜の車  
を授く竹竿をのりて櫃の中なる物を用ひらるるにせよ。手  
下の勢をよしく戒も盤蛇谷の前後を固て法のごとく行へ半月  
の内を全く備らるるや若失あらば軍法を正さんと云ければ馬  
計とて受て生みけり。孔明又趙雲を呼ばせ汝盤蛇谷の後を  
三江の大路を行て。争うくは用意せよ日限を誤ることあらん。次  
魏延を呼ばせ汝手下の勢を引て桃葉の渡に陣屋を作り南

蛮の勢は水と渡りて攻くるべし汝の陣を打と。白旗の立  
 る名を望んで走り来と。今日と始として。十五日の内、十五度  
 戦ひは打負て、懸と敵の七所の陣屋を奪はせ、汝の只何と  
 も白旗のたまたま、自ら身と脱るの道あらんと。いひけし、  
 魏延命を受けて、この内、このままを快くして去りけり。孔明  
 又張翼とよんが敵を誘く道と。白旗を立て、陣屋を  
 造らしめ、張疑馬忠は降参の蛮兵千余人を授けて、この計を  
 せしめ、舎と笑て此度まで、全く功を成んと云けし。諸將  
 進んで出むる去程、孟獲は元突骨が桃花水の戦ひに  
 勝たるとして、喜び急ぎ出むる中、孔明の詐の計  
 をみせしめ、伏兵を破る。今より

後より、谷の内、林の陰あり、必を軽く進  
 り、元突骨が曰く、大王の言まゝと然り。我を中、國の人  
 よく詐の計をたてし、けり。我の先手ありて、戦ひ、大王は  
 後陣ありて、道と教り、人といふ二人走り来り、桃葉の渡り  
 北岸に蜀の勢、陣屋を作ると報り、けし。元突骨、きり、あ  
 ら、即時に土安、美泥とよび、寄汝二人兵を、よて、この敵を、け  
 ちしと、奔よと下知し、二人いそぎ、藤甲の軍を、よて、水を渡  
 り、蜀の陣を突つて、入魏延、詐負て、走けし。南蛮の勢あり、追  
 水と渡りて、回けり。次の日、魏延、又陣屋を作けし。南蛮の勢、水と  
 渡りて、攻くる。魏延、志づき、戦て、さんぐみ、走りけし。南蛮の  
 勢、十里め、追うけ。よく四方を伺志ひる。伏兵あり、追ら

敵の奔る陣屋を籠て。次の日勝軍と報づけられ、兀突骨  
の軍を引いて水と渡り来る魏延とて、兵を退け  
し、兀突骨勢ひの引いて追蒐る蜀の勢とて、さきと逃へ甲  
盛と脱奔、あつ旗の立たるを望んで、逃集けし、川の陣屋  
あり。その中を籠て戦ひ、兀突骨大軍と駈てきて、けしを魏  
延、入陣屋と奔り、逃走る南蛮の勢、その陣と乗り、勢ひ  
の引いて追蒐し、魏延とて、回し、五六合戦て、又走り、白旗と  
ぞんで来けし、兀突骨、又川の陣屋あり、乃ちそのある屯割し、けし、次  
の日南蛮の勢、大とて、魏延とて、戦ひて、又走り、けし、南  
蛮勢、その陣と攻取、己に十五日か、あつ蜀の陣屋、七つを  
て、十五度の戦ひ、打勝、けし、兀突骨、引いて、

つまた進で追うけ、林の内谷の陰を伺ひ、蜀の旗、けり  
て、立て、兵一人もあつ、けし、兀突骨、大と喜ぶ、孔明、己に計  
策、窮り、十五度の戦ひ、負て、七所まで陣屋と奪る、味方始  
て勝つ、つと、頭たり、己に桃葉の渡とて、あつ、三百里、蜀の  
勢、騰を冷し、風と望んで、逃走る、大事、己に定まり、と云、けし、兀  
突骨、大と喜ぶ、自ら、真先、進、来る、第十六日、及んで、魏延、敗  
軍と、引いて、進、けし、兀突骨、白象、騎、て、ま、つ、頭、日月  
の狼鬚、帽、を、い、身、金珠、の、網、絡、と、垂、腹、背、懸、生、眼、乃  
光、星、の、と、大、軍、と、近、て、進、来る、魏、延、震、怖、れ、一、支、も、支、さ、山  
と、轉、入、盤、蛇、谷、の、内、走、り、けし、兀突骨、繞、て、追、う、け、山、草、木、を、  
と、て、伏、兵、は、と、喜、ぶ、兀突骨、入、けし、黒、旗、櫃、と、の、せ、なる、車、校

とあらざり奔置と。南蛮勢とて。是の蜀の軍勢は極  
兵糧と運路ありし。大王の来りし。車と奔走走  
りたる。と報む。兀突骨勇折び兵を逐て。争て車と奪  
りて。谷の口を生んと。山の上より大木大石を投下し。す  
谷の口を切塞げり。兀突骨が兵を下知して。道を開んと。前  
前。柴を積。車ありしが。忽然と火を生たり。大木大石を  
も大事。及ぶ。早く退け。色々叫ぶ。後。又喊の色。後  
後の路も乾ける。柴を積。敵已に塞。報を時。大小の車  
火。又生。内。硫黄。焰。硝。ありて。尽く。付。け。ども。兀突骨。四方  
草木。を。ま。ま。と。て。ふ。さ。の。周。章。せ。ど。路。を。尋。て。走。ん。と。さ。る。ふ。  
両方の山の上より。投。火。把。と。雨。の。ど。く。投。下。し。け。し。地。の。底。を。せ

置たる。薬線。は。尺。く。り。付。鉄。炮。谷。の。中。に。遍。満。し。火。の。光。乱。舞。て。天  
漲り。地。は。益。る。况。や。藤。の。甲。の。油。は。浸。せる。もの。あ。る。火。の。移。と  
蘆。葭。す。り。も。早。く。兵。糧。の。車。と。さ。る。中。より。硫。黄。焰。硝。送。り。生  
て。兀。突。骨。と。初。と。く。三。方。に。余。り。藤。甲。の。軍。勢。尺。く。谷。の。内。に。焼。殺  
さる。孔。明。山。の。頂。より。望。み。し。る。盤。蛇。谷。の。中。に。死。と。る。亦。虫。兵。拳。を  
伸。脚。を。張。て。大。半。の。鉄。炮。を。頭。に。打。て。腹。を。碎。れ。て。上。が。上。に。重。ま  
り。伏。せ。の。鼻。と。ら。ぬ。孔明。涙。を。あ。び。し。て。嘆。息。し。る。と。社。稷。の  
為。に。功。あり。と。い。ふ。も。必。ず。と。壽命。を。損。む。と。鳥。也。國。の。勢。と。一。人。も  
漏。さ。む。と。云。け。し。ま。さ。く。人。と。哀。れ。催。ける。ま。の。と。南。蛮。王。孟。獲  
へ。味。方。の。焼。殺。され。たる。も。も。ち。ら。む。本。陣。を。固。め。り。け。る。か。た。ち。ま  
ち。蛮。兵。千。余。人。ま。たり。喜。び。笑。ひ。て。再。拜。し。鳥。也。國。の。軍。勢。界。の。兵

盤蛇谷ばんじやくの地ち雷火らいかと  
藤甲軍ふじこうぐんと  
魔まと



と打破り孔明を盤蛇谷の中にて取巻とり大王早く来りて  
云けしと孟獲大に喜び一族を拜具して直に盤蛇谷まきたり  
火の光おびしく起て真と甚だうりけしと計の中ぬし思ひ  
まう退くんとせると左に張嶷右に馬忠二手の勢殺生を孟獲  
一軍しく落んとせると又喊の音耳本みびいて手下の勢大半蜀  
の兵ども雜居けしとびくぐと搦取孟獲を一騎囲を山路を尋  
て走りけるも忽然と一輛の車を推し孔明の上  
端坐して大音言てあげ及奴孟獲の度服をやとさづりけし  
孟獲まう馬を回して走りけるも馬は五百余騎を路をよま  
きり卒に生取て回ける孔明の本陣を回り諸將を集めて曰く  
今この計を行へばとて得ざるのみならず大に陰徳を損む

料は南蛮の叢山の内林の間へ伏兵おらんと疑べしとの人  
又旗をうりて立置とり魏延は十五度の戦ひをも負せたりし  
敵のふて傲志おらんが為ちうらん傲るとたへ必も勝みの心で追  
くるも盤蛇谷とせると只一の路ありて四方を疾風を立て  
たるごとく地中深く砂ありて人の助あるとて志氣之より馬  
伏し命とて樹木を伐せらば敵のふて疑わざらむ先の黒櫃  
は薄より地雷といふものを造置たり一の鉄砲は九の丸を  
よち三十歩の隔て埋く地は埋く大竹の節を通し薬線と引  
て四方を一通せしと僅に一石を火を付るとたへも同時地震  
動して山を崩し岩を裂くと又趙雲は命とて預ち乾ける衆  
も車は積内は硫黄焰硝の類を籠まうし山の上は大木大石を

あつめて路と塞の備をなさしめ魏延を命じて元突骨并  
藤甲の軍を谷の内へ列入させ後より魏延を生くまじく前  
後の路を塞ぎ一同火を掛たるもの我まけり水も利あるもの  
の必き火も利あらずと藤の甲へ刀も矢も透さず水も入て湿む  
と又ども元来油を浸せざるものあま火まきや付やはし南蛮の  
勢此のどく頑皮あま火攻まあらざるを安んずよく勝ん然  
れども烏戈國の人を尽く焼て種類をばらざる少の我身の罪  
ありと詔けしむ詔將拜伏しく曰く丞相の天機鬼神も測  
し孔明をあへち孟獲祝融夫人あらば孟優帶來洞主その外  
の一族どもを尽くとき放させ詔將を命じて酒を飲し丞相今  
汝が皮の厚き面を人として羞て早く汝を放して早く

しめ又人馬をあつめて勝負を決せよと宜ぞ早く回て再備  
せよと云せしむ孟獲涙をあびて曰く七び擒りて七び放  
さるとも古よりいまだ聞かざる化外の人あまども頗る礼義  
を志すりして卒に一族を引具りて皆地上に匍匐し肉袒して  
罪を謝し丞相の天威南人再び及ぶと云けしむ孔明曰く  
御辺いまん服せらるる孟獲泣て曰く某子孫くも孟獲載生  
成の恩で感も安んず服せざらん孔明をあへち孟獲を帳上  
精酒宴を設て喜びを述べあぐ南蛮の王たるをんとて奪取  
たる地を尽く返しけしむ孟獲をば宗族に至るまで踊躍し  
て喜び拜謝して去りけり長史費禕ひて孔明を諫ちて曰  
く今丞相がく不毛の地をさるべと入て巴蜀を服せしめ

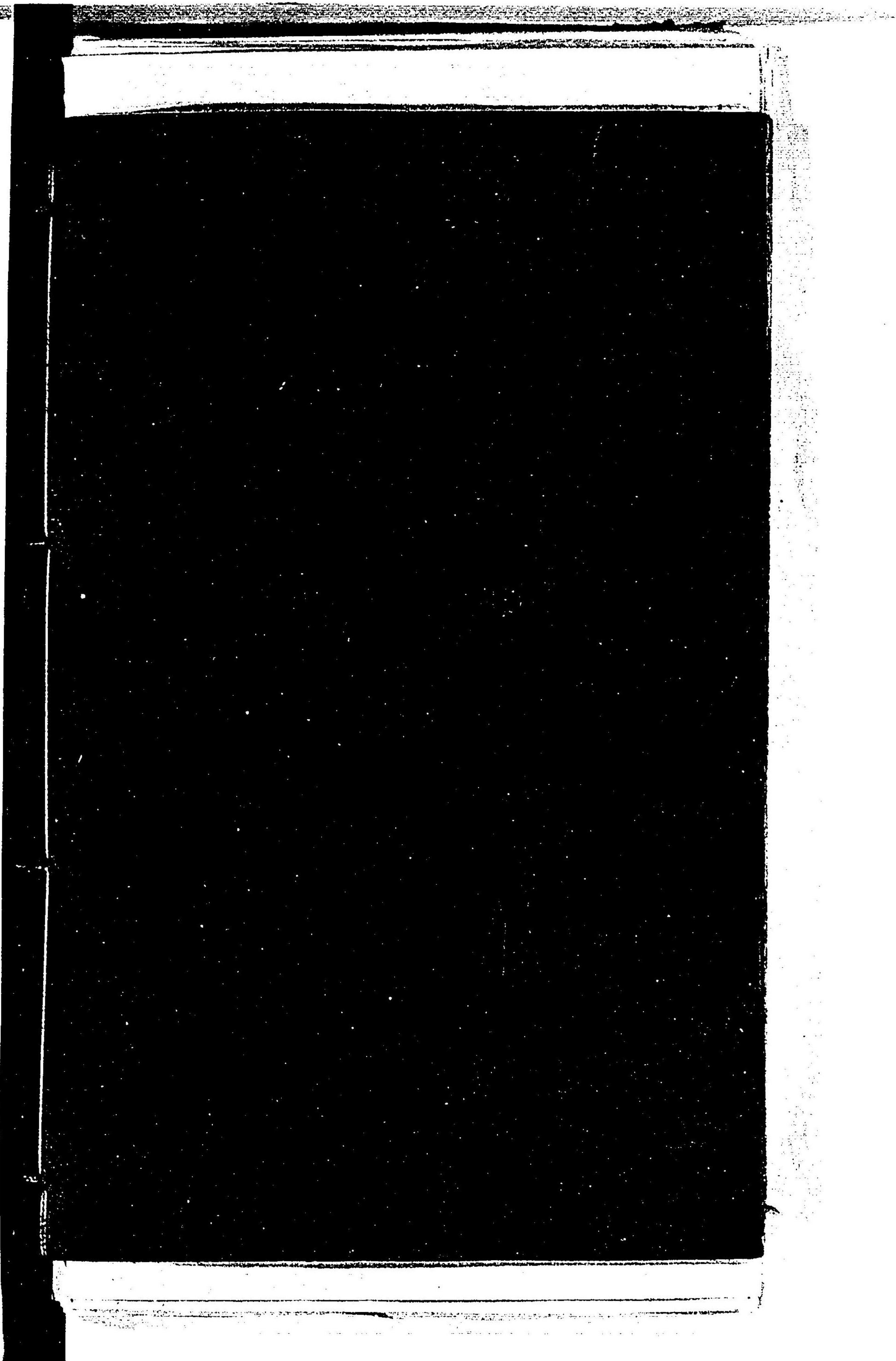


入り。何ぞ官人をとら置て。其獲と共國を治せしめぬ  
 ぞ孔明が白く若官人をとら置とらへ三の不易とあり他國の  
 人を留るとは軍兵をも残置て。是兵糧の運送も勞と。一の  
 不易あり。板十度の戦。南蛮の勢親を討て。子に討て。たか  
 きの多し。若官人をとら置て。軍兵を殘さむ。人心を必も禍をお  
 さん。二の不易あり。蛮夷志の廢殺の罪あり。自ら疑ひを  
 せ。扶さむ。若官人をとら置とらへ。卒に相共疑ひを發し  
 て。禍の基とあらん。三の不易あり。我いま人を留て。糧を運ぶ  
 べく。自然は安らんと云けし。人々を拜伏せ。まのよ。蛮  
 夷。孔明が徳と感。生祠を立て。四時怠らむ。祭をま  
 せ。相呼ぶ。慈父と号し。我劣と。金珠珍宝。丹漆。藥材。耕

繪本通俗三國志六編卷之六終

牛戰馬を送り。毎年天子に貢物を進て。折言て。又叛じと  
 いふ。南方已に定りけし。孔明大に謀軍と勞ひ。魏延を先  
 陣の大將として。都とさし。打起けぬ。

122  
74  
28





繪本通俗三國志

六編六